

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	柿生学園	評価対象年度	平成28年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 ・代表者名 長谷川 忠司 ・住所 川崎市高津区久地3-13-1	評価者	障害計画課長
指定期間	平成28年4月1日～平成33年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害計画課

2. 事業実績

利用実績	生活介護・施設入所（定員60名） 契約者数 60名（平成29年3月31日現在） 短期入所（定員 4名） 延利用者数 2,139名 日中一時（1日 5名） 延利用者数 178名																																										
収支実績	<table border="0"> <tr> <td>収入</td> <td></td> <td>支出</td> <td></td> <td>収支差額</td> </tr> <tr> <td>福祉事業活動</td> <td>486,642千円</td> <td>福祉事業活動</td> <td>492,887千円</td> <td>-14,922千円</td> </tr> <tr> <td>給付費</td> <td>309,727千円</td> <td>人件費</td> <td>315,495千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>川崎市単独扶助</td> <td>105,926千円</td> <td>事務費</td> <td>67,265千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定管理委託料</td> <td>31,581千円</td> <td>事業費</td> <td>65,725千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>拠点区分間繰入金</td> <td>0千円</td> <td>拠点区分間繰入金</td> <td>44,402千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>39,408千円</td> <td>施設整備等支出</td> <td>8,677千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>486,642千円</td> <td>合計</td> <td>501,564千円</td> <td></td> </tr> </table> <p>※端数処理のため合計が一致しないことがあります。</p>	収入		支出		収支差額	福祉事業活動	486,642千円	福祉事業活動	492,887千円	-14,922千円	給付費	309,727千円	人件費	315,495千円		川崎市単独扶助	105,926千円	事務費	67,265千円		指定管理委託料	31,581千円	事業費	65,725千円		拠点区分間繰入金	0千円	拠点区分間繰入金	44,402千円		その他	39,408千円	施設整備等支出	8,677千円		合計	486,642千円	合計	501,564千円			
収入		支出		収支差額																																							
福祉事業活動	486,642千円	福祉事業活動	492,887千円	-14,922千円																																							
給付費	309,727千円	人件費	315,495千円																																								
川崎市単独扶助	105,926千円	事務費	67,265千円																																								
指定管理委託料	31,581千円	事業費	65,725千円																																								
拠点区分間繰入金	0千円	拠点区分間繰入金	44,402千円																																								
その他	39,408千円	施設整備等支出	8,677千円																																								
合計	486,642千円	合計	501,564千円																																								
サービス向上の取組	<p>・言葉によるコミュニケーションが困難な利用者が自らの意思に基づいて主体的に生きていくことを支援するため、これまでも写真等の媒体を用いて希望に沿ったサービスを提供してきたが、今年度よりインターネットを用いた情報提供を開始し、特に行事の計画において利用者の一層の満足につながる結果となっている。</p> <p>・音楽に触れることや自分で演奏することの喜びが利用者の日常生活をより豊かにしていることを受け、ボランティア等の演奏に接する機会や利用者の演奏を家族等に聴いていただく機会を拡充するとともに、音楽療法の回数を増やしている。</p>																																										

3. 評価（評価段階：5～1,標準：3,加点割合：5→100%,4→80%,3→60%,2→40%,1→0%）

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	4	8
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	4	8
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
<p>(評価の理由)</p> <p>・高齢化・重度化による生活上の負担を考慮しながら、一人一人の意思や人格を尊重し、生きる喜びを感じられる支援を行っている。また利用者会の運営支援を行い、可能な限り利用者自身がお互いを尊重しながら自分たちのことを決めていけるように取り組んでいる。</p> <p>・自立して地域で生活している人間として誰もが当たり前に行っている外出や買物の支援を行い、人として自然な欲求の充足に努めている。</p> <p>・短期入所においてはより重度の利用者を多く受け入れ、年間利用者数が前年度比で約104%となっている。また、日中一時支援事業では短期入所の利用に先立って、利用者がはじめて接する職員及び施設の環境に慣れることを目的とする利用を積極的に促している。</p>					
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	3	3
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	3	3
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
	適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか			
<p>(評価の理由)</p> <p>・支出については、繰入金支出が見込みを上回ったことにより、支出合計額について当初の見込みを上回った。</p> <p>・収入については、予算とほぼ同額の収入を安定して確保することができた。</p> <p>・法人の経理規程を順守して金銭管理を行い、適正に処理を行った。</p>					

サービス体制	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	4	4
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
	利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	4	4
		利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 個々の意思を尊重し障害特性等のニーズに基づいた個別支援計画を作成・モニタリングすることによって、根拠に基づいた支援を提供して利用者のQOLの向上に努めている。また、15名ずつ4ユニットの小集団を基本とし、家庭的な雰囲気を持った穏やかな生活を重視している。 • 健康の維持管理については、支援員に加えて管理栄養士や看護師等他職種がケア会議に参加し、利用者の意向とニーズに基づいて食事や検診・日中活動における運動等の支援を提供している。 • 低床ベッドを導入し、利用者の就寝時・起床時の安全性を向上させた。 • 利用者については、各ユニットにおいて随時聴取するほか、利用者会の中で挙げられたものを可能な限り利用者とともに考えて解決している。 					
組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	4	4
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	4	4
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 支援ニーズの高度化・多様化に対応するため行動障害に関する研修を多く受講し、また食事・嚥下・口腔ケアについても学び実践している。それによって利用者の安心・安全が確保された暮らしとなっており、また支援員が自信を持ってサポートできる体制を整えることにつながっている。 • 施設の老朽化及び時代の要請に合わなくなった構造である中、安全の確保に多くの労力を尽くした支援を行い、事故件数が減っている。 • 年に2回行われる防災訓練では火災・地震に加えて土砂崩れを想定し、日頃から利用者の障害特性を考慮した防災を意識できるよう努めている。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各種保守・点検について、業務委託により適切に実施されている。 • 施設・設備の老朽化に対しては、利用者の生活に支障をきたさないよう計画的に修繕を実施している。また不具合が起きたときは、その都度迅速に対応できている。 					

4. 総合評価

評価点合計	70	評価ランク	B
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A~E,標準: C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→50点以上60点未満,E→50点未満
A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

- ・ニーズの変化に即応し利用者主体の質の高い支援プログラムを提供するために、PTや看護師等の専門職と連携して支援を行っている。
- ・法人が近隣に設置しているグループホームとの連携により地域移行した利用者の暮らしを支える役割を担っており、「柿生学園が近くにあるから安心できる」という声も寄せられている。
- ・30年ものあいだ積み重ねてきた地域とのつながりを継続・拡充し、会議室の開放や施設行事・地域行事への参加に加え隣接地の畑で地域住民と利用者がともに収穫を行い、作物を給食の食材とすることにより自らの行動が楽しみにつながる体験となっている。それにより、地域に根差した施設としての重要性を高めている。
- ・施設・設備の老朽化に加え特にプライバシーやバリアフリーの点で時代に求められる構造となっていない中、利用者それぞれが安心して楽しい毎日を過ごせるよう強い熱意を持って支援技術の研さんに努め、日々の支援に取り組んでいることは高く評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等